

# 平成21年度 自閉症に対応した教育課程の在り方に関する調査 研究事業 中間報告書

## 1 研究のねらい

自閉症の子どもは、その障害の特性から、学習して身につけたことを般化することが難しいと考えられている。その時に子どもが置かれている場面や状況が行動に大きな影響を与え、能力を十分に発揮できないことが多く見られる。

そこで、自閉症の子どもの家庭生活・学校生活・社会生活をより豊かなものとするために、場面や状況が変わっても、学習の成果を発揮できるための支援体制の在り方や指導方法について、研究実践校（小学校1校、中学校1校、特別支援学校1校）が連携して研究実践を行うこととする。

特に、対人関係やコミュニケーションを中心とした社会性の育成について、指導内容指導方法・指導体制、領域の設定等に焦点をあてた研究実践を行う。

## 2 研究内容

1. 児童生徒の社会性を育成するための指導内容・指導方法・指導体制の工夫改善
  - 1) 小集団による指導体制の工夫改善
  - 2) ソーシャルスキル教育による指導の工夫改善
  - 3) 生活単元学習における般化の場面の設定
  - 4) 体育科の授業を中心とした、人との関わりや集団におけるルールの学習の工夫
  - 5) 構造化等、効果的な教材教具の活用や学習環境作り
2. 般化を視野に入れた支援体制・指導方法の工夫改善
  - 1) 般化を視野に入れた教育課程の編成（自立活動の内容の整理、個別学習と集団活動との関係の整理）
  - 2) 般化を視野に入れた個別の指導計画の作成
  - 3) 発達段階や場所に応じた構造化の在り方の検討
  - 4) 家庭・保護者との有効な連携方法の工夫

## 3 評価の方法

1. 標準発達検査や社会性の発達に関連したスキル等の獲得評価表により、社会性やコミュニケーション能力を評価する。
2. 個別の指導計画に設定した目標の達成状況で評価する。
3. 保護者や教師に対するアンケートの解答により評価する。

## 4 研究経過

1. 第1回研究運営協議会を開催し、研究テーマ、研究計画等について共通理解を図った。また、各研究実践校における研究内容を報告し、3校の連携について協議し

た。研究実践校は、徳島市加茂南小学校、徳島市城東中学校、徳島県立国府養護学校である。

2. 各研究実践校のニーズに応じた外部講師を招聘し、コンサルテーションによる授業研究を実践した。
3. 研究実践校3校が互いに授業参観を行ったり、授業研究会に参加したりすることで連携を進めた。
4. 従来から夏季休業中に開催している国府養護学校の「親と教師の学習会」に小・中学校の教員も参加し、学校と家庭の有効な連携の在り方について研修した。
5. 特別支援教育全国大会等に参加し、先進事例等について研修した。
6. 第2回研究運営協議会を開催し、各研究実践校が1年次の取組を報告し、成果と課題を明らかにした。2年次の取組について協議し、研究計画を立てた。

## 5 成果と課題

### 1. 加茂南小学校の取組

#### 1) 対象児の平成21年度の教育課程について

〈表1 対象児の時間割〉

平成21年度、対象児(A児・B児)は新入生なので、4月当初教育課程を考える段階で実態を十分把握することができなかった。本校特別支援学級の教育課程は、朝の会、体育などが同じ時間帯に設定されており、自閉症児にとって1日の生活の見通しを持ちやすく情緒の安定を図りやすい。そこで、本年度は、本校特別支援学級従来の教育課程に沿った形で対象児の教育課程を考え、個別の指導計画を作成した。

	月	火	水	木	金
	日常生活指導	日常生活指導	日常生活指導	日常生活指導	日常生活指導
	朝会・朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会
1	体育	体育	体育	体育	体育
休み時間	日常生活指導	日常生活指導	日常生活指導	日常生活指導	日常生活指導
2	生単	生単	生単	生単	生単
3	音楽(B児交流) 生活(A児)	図工	国語	算数	算数
4	算数	算数	算数	国語	生活
	日常生活指導	日常生活指導	日常生活指導	日常生活指導	日常生活指導
5	国語	国語	音楽(交流)	帰りの会	国語(前期) 特活(後期)
	帰りの会	帰りの会	帰りの会		帰りの会

本学級には4名の児童が

在籍している。本校第1学年は3学級あり、対象児は同じクラスに交流しているが、他の児童2名はそれぞれ別のクラスに交流している。児童によって交流教科も交流する時間も異なる。対象児の時間割を考える場合、他の児童の時間割や交流学級の時間割との調整も図らねばならなかった。

## 2) 小集団による指導体制・指導内容の工夫改善

### ア 研究方法

対象児（A児・B児）は、彼らの障害特性から対人関係やコミュニケーションに課題を持ち、集団行動を苦手とした。また、獲得した知識や技能をそのままに、日常生活場面や現在及び将来において用いることはとても難しいことであった。そこで、このような児童の実態と本校特別支援学級の現状から、次のように般化を視野に入れた学習のスタイルを設定した。集団の規模を段階的に変えることで、集団参加へのストレスを減らし社会性を育成しようと考えた。

- ・ ペア学習（A児とB児2名による学習）
- ・ グループ学習（本学級4名による学習）
- ・ あさひ学級全体での学習

#### A) ペア学習

A児とB児2名による学習で、二人だけで学習することによって、相手を意識し、相手からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができるようになることをねらいとした対人関係の基礎を築く学習である。

学習場面として、体育の準備・片付け、給食当番、音読の練習、計算カードの練習、草抜きの練習、ジャンケンゲームなどがある。

#### B) グループ学習

本学級4名による学習で、複数の友だちの考えや感情、行動を受け止めることにより、自己を理解したり行動を調整したりすることができるようになることをねらいとした学習である。ともに同じ活動をする中で本学級への所属感を高め、協力する力や仲間意識も育つと考える。

学習場面として、帰りの会、調理実習、特別活動の時間などがある。

#### C) あさひ学級全体での学習

本校特別支援学級全員（20名）による学習である。異学年で活動することで、自他の立場を理解したり、手本となる言動を習得したりすることをねらいとした学習である。あさひ学級への所属意識を育み、集団で協力する力や有能感を高める。また、ペア学習やグループ学習で獲得した技能の般化の場面でもある。

学習場面として、朝の会、体育の時間、生活単元学習の時間がある。

## 3) ソーシャルスキル教育による指導の工夫改善

### ア 研究方法

人は、さまざまな人間関係の中で生活し、経験を積むなかで、人が人として社会の中で生きていく社会的能力を身につけていく。しかし、対人関係やコミュニケーションの困難に主たる障害をもつ対象児及び軽度の発達障害をもつ本学級の児童はその習得が難しく、前期（4月～9月）、各々に学校生活の中でさまざまな集団不適応を起こしていた。

そこで社会生活への適応力を向上させるために、ソーシャルスキル（「社会生活や対人関係を営んでいくために必要とされる技能」と定義することとする）のトレーニング（Social Skill Training、以下 SST と称す）を後期よりグループ学習で取り組むことにした（上野・岡田 2006）。

#### A) 指導時間

本学級の全児童が参加し、TT で指導が可能な金曜日の 5 時間目を国語から特別活動の時間に変え、その時間の中で「みんなの時間」と称して行うこととした。

#### B) 指導内容

ソーシャルスキル尺度（上野・岡田 2006）による、本学級の児童の 4 つの指導領域（集団行動・セルフコントロール・仲間関係・コミュニケーション）のスキル評価点から、全児童についてどのスキルも必要であることがわかった。その中でも特に対象児においては「仲間関係スキル」、他の児童については「セルフコントロールスキル」「コミュニケーションスキル」の必要性が高かった。

集団行動：学校生活や集団行動などフォーマルな人間関係に必要なスキル
セルフコントロール：行動、注意、衝動性、感情などの自己統制に関するスキル
仲間関係：友だち関係を維持したり、友情を深めたりするのに必要なスキル
コミュニケーション：会話、話し合い、自己表現など意思伝達手段に関するスキル

そこで平成 21 年度は、後期（10 月～3 月）からの取り組みであるため、平成 22 年度に系統立てて指導していく前段階として、現時点で対象児の必要性が高い「仲間関係スキル」と新入生ということで学校（施設や人）に親しみ自信をもって生活できるための SST を中心に指導内容を考えた。その場合児童の学習意識を持続させ、日常般化がしやすいゲームをスキルに多く取り入れることにした。また、児童の実態から 1 つの SST は、大体 20 分前後とし、1 時間に 2 つの SST を組み合わせて行う場合もあった。

#### C) 平成 21 年度実施の SST

〈表 2 今年度実施の SST と指導のねらい〉

今年度実施の SST と指導のねらい			
SST	題材名	指導回数	ねらい
1	「大きなかぶの劇をしよう」 ・教科書の話に合わせてお面をつけて劇をする。	4 回	・集団参加、役の選択、役割遂行、相手の動きに合わせる、言葉のやりとり、仲間に関わる、所属感を高めるなど。
2	「みんなで探検、一人で探検」 ・校内をみんなで探検した後、一人でも探検する。	4 回	・ルールの理解、特別教室の入出のマナー、階段・廊下でのマナー、迷ったときの対処法など。

3	「職員室へ行こう」 ・職員室へ頼まれた物を取りに行く。	4回	・職員室入出の挨拶、指示に従う、職員室でのマナーなど。
4	「簡単ゲーム」 (すごろく・黒ひげ危機一髪) ・仲間と楽しくゲームをして遊ぶ。	各4回 SST1～3 と組み合わせ せて	・ルールの理解、順番を待つ、勝ち負けの経験、負けの受け入れ、仲間との関わり、遊びの共有など。
5	「先生にサインをもらおう」 ・先生に自分から話しかけて、サインをもらう。 2回目からは、職員室で行う。	4回	・ルールの理解、対人関係のルール（話しかけ方）など。 ・2回目からは、SST2のねらいも付け加える。
6	「簡単ゲーム」 (おちたおちた・フルーツバスケット) ・教師や鬼の指示を聞いて、仲間と楽しくゲームをする。	4回	・ルールの理解、聴覚的理解、役割交代、仲間との関わり、遊びの共有など。
7	「こんなときどうするの」 ・SSTカードを使って、問題場面の状況を理解し、どうすればよいかを考える。	4回	・社会的問題解決、社会的状況の理解、対人ルールの理解など。
8	「簡単ゲーム」 (トランプで神経衰弱ゲーム・ジャンケンゲーム) ・トランプや相手の指に注目し、相手とのタイミングを計り楽しくゲームをする。	各2回 SST7と組み 合わせて	・ルールの理解、相手の動きに合わせる、視覚的理解、順番を待つ、負けの受け入れ、仲間との関わり、遊びの共有など。

#### 4) 生活単元学習における般化の場面の設定

##### ア 研究方法

「社会性に困難がある発達障害の子どもたちには、社会性に必要な事柄・活動を単元としてまとめ、生活単元学習の考え方に基づいて指導プログラムを作成することにより、子どもたちの生活上必要な実際の・実践的な活動となる。モチベーションを高めることができ、また、スキルの般化にもつながりやすいという点で有効な手立てである。」(岡田・三浦・渡辺・伊藤・神山・佐伯 2009)。以上の考えを参考にあさひ学級の生活単元学習を見直し、図1の大単元構想図を作成した。

A) 平成21年度のあさひ学級の生活単元学習

あさひ学級では、生活単元学習の時間をモジュールに設定し、本年度は、カレンダー作り、のびのび農園での農作業、収穫した野菜を用いての調理実習、お手伝い貯金や買い物学習、文化祭のバザーの商品作り・販売、クリスマスコンサート（ハンドベルの演奏）、校外学習、学習発表会、6年生を送る会での合奏などを行った。

その中でも特に地域社会との接点が大きい校外学習は、日頃学校で学んできたスキルを実際に社会で生かすよい機会であると考えた。この学習では、交通費や映画鑑賞代が農園で収穫した野菜の販売・文化祭バザーでの小物の販売によって得られた収益から賄われ、食事代・お土産代は、毎日お手伝いをしてもらったお金を貯金した中から出されている。本学習を行うことで、本学習に関わる学習においても子どもたちのモチベーションを高めることができると考えた。

B) 大単元「校外学習に行こう」〈図1参照〉

図1のように、この大単元はいくつかの小単元で構成される。そこでは、さまざまな社会的スキルが必要とされる。そのスキルを主に学習のどの場面で獲得すべきかを考え実践してみた。

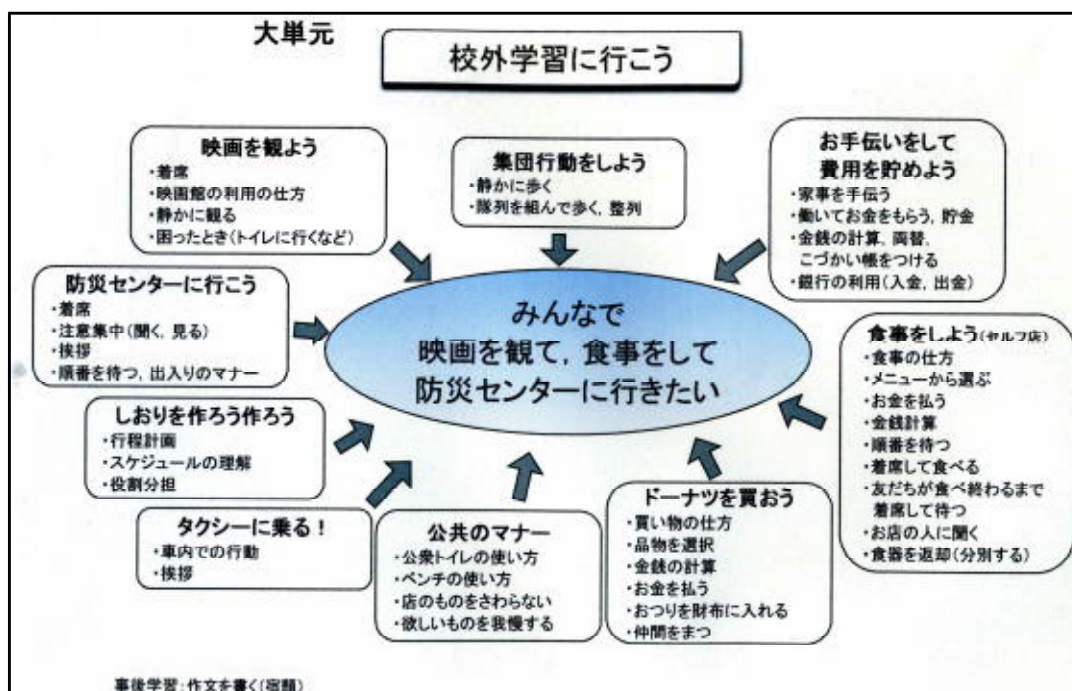


図1 〈大単元構想図〉

5) 体育科の授業を中心とした、人との関わりや集団におけるルールの学習の工夫  
ア 研究方法

あさひ学級では、体育の時間をモジュールに設定し、これまで健康でたくましい体を作るだけでなく、心（協調性、耐性、自己抑制力、自信、気力など）を育て、知的能力を高めることをねらいとしてきた。

体育の1時間の内容は、年間通して行う①教室と体育館の間で隊列を組んでの移動②準備体操③マラソン（10～15分）④準備・片付けと、⑤季節によって変わって

いく運動がある。

平成21年度は自閉症児の入学ということで、特に、集団のルールや人との関わりを学ぶということをキーワードに次のような運動を多く学習の中に取り入れてみた。

〈表3 人との関わりや集団のルールを重視した運動〉

実施月	運動名	運動内容と社会性を育てるためのねらい
4月 ～6月	サーキット運動	・ 肋木→平均台→トンネルくぐり→ケンパー跳び→的当て→ターザンロープ→トランポリン→肋木 (行動調整、ルールに従う、流れに沿って動くなど)
11月 ～1月	鬼ごっこ	・ ふえ鬼、こおり鬼、手つなぎ鬼、警泥、追いかけて玉入れ (ルール理解、役割交代、仲間と関わるなど)
	ボールゲーム	・ 転がし中当て、ドッジボール (ルールの理解、ルールに従う、相手の動きに合わせる、ジョイントアテンションなど)
	力試しの運動	・ すもう、ひっぱりっこなど2人組の運動 (ルールの理解、相手の動きに合わせる、仲間を応援するなど)
1・2月	ボールゲーム	・ 風船バレーボール、新聞紙サッカー (協力する、ルールに従う、仲間を応援するなど)

## 6) 構造化等、効果的な教材教具の活用や学習環境作り

### ア 研究方法

周りの刺激に敏感で、変化に対して興味よりは不安を感じやすい対象児が、まずなによりも落ち着いて学校生活を送ることができるために、自閉症児の障害特性から有効とされる、①見通しをもたせること、②視覚化すること、③手順化すること、④パターン化することを取り入れ学習環境の構造化を図った。構造化は、物理的、時間、活動の3つの視点から行った。

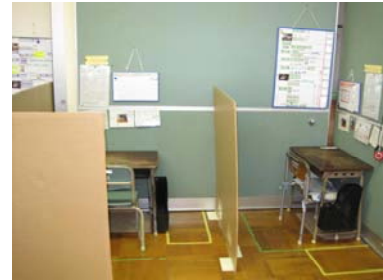
- ・ 物理的構造化・・・活動する内容と場所を対応させる。「どこで」「なにを」すればよいのかが分かり、取り組む課題に注目できるように教室環境を整えること。
- ・ 時間の構造化・・・見通しをもち、主体的に活動できるように学習していく内容を視覚的に示していくこと。
- ・ 活動の構造化・・・主体的に課題に取り組めるように、活動する順番、作業の手順を分かりやすくすること。

イ 実践例

A) 物理的構造化の例



〈全体学習の体型と床のマーク〉

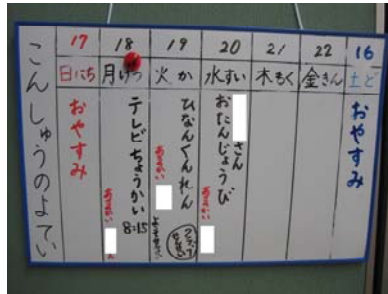


〈個別学習スペースのための  
移動式しきり〉

B) 時間の構造化の例



〈A児の日々のスケジュール表〉



〈1週間の行事予定表〉



〈1ヶ月の  
行事予定表〉

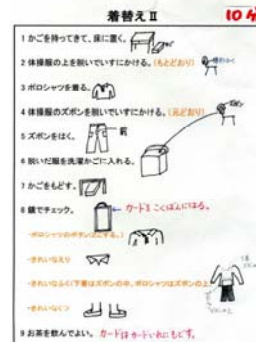
C) 活動の構造化の例



〈課題をする順番が分かる  
国語のファイル〉



〈1時間の学習  
内容（個人用）〉



〈着替えの順番〉



〈ひも結びの仕方〉



## 7) 成果と課題

### ア 成果

#### A) 小集団による指導体制・指導内容の工夫改善について

対象児は、ペア学習の中で自然と相手を意識し、相手に対して要求・感謝・いたわりの言葉が出てきて語彙も豊かになってきた。また、活動した後の成就感が二人の結びつきを強くし、協力したり、切磋琢磨したりとよい対人関係の基盤がつけられている。二人は、互いに「大好きな友だち」となっているようだ。

本学級4名によるグループ学習では、対象児は対等な仲間と共に活動する中で、仲間と関わる楽しさを自然と感じ、1年生の仲間と同じ活動をしたという意識が強くなってきている。他の2名においても対象児を理解し頻りに遊びに誘ったり、困っていると声を掛けたりと互いに仲間意識をもつようになってきている。

あさひ学級全体での学習では、メンバーの中に本学級の仲間がいるということで落ち着いて学習に参加できている。また、最近、上学年の児童の様子を気にする言葉がよく聞かれるようになってきた。

このようにペア学習やグループ学習で対人関係や仲間関係の基盤をつくっていくことは、次の集団へ参加しやすく対象児にとって有効であったといえる。

#### B) ソーシャルスキル教育による指導の工夫改善について

対象児は、ゲーム感覚でスキルを学ぶことで、学習意欲を維持でき毎回最後までSSTに参加することができた。また、SSTの中で行った「フルーツバスケット」は、あさひ学級全体で行うお誕生会で般化することもできた。以前は、集団ゲームになると参加することが難しかった。少人数の中でゲームのルールをゆっくり理解し、仲間とともに活動する楽しさを感じることができたからこそ対人関係を広げることにつながったといえる。今後も続けていきたい学習である。

また、SST指導体制として4名の児童に教師が2名というのは、モデリングを見せるのにも、一人ずつロールプレイしながらスキルを指導するのにも適当な人数であった。指導時間も児童の実態に合っていた。

#### C) 生活単元学習における般化の場面の設定について

実社会の中に般化の場面を設定した校外学習は、般化が難しいといわれる対象児にとって、日々の学習の成果や課題が浮き彫りにされるため、今後の指導を考える上で有効な学習であった。また、地域社会での対象児の様子を知ることは、担任として保護者の思いを改めて感じる機会となった。今回の楽しかった思い出が、これからの校外学習に関係する学習の意欲を高めることにつながると考える。

#### D) 体育科の授業を中心とした、人との関わりや集団におけるルールの学習の工夫について

1月に入り、対象児が休み時間にあさひ学級の仲間と一緒に校庭で鬼ごっこをしている姿が見られた。前期には、全く見られなかった光景である。それまで、二人はいつもブランコをするかゲームのキャラクターになって一人で運動場を走ってい

た。体育科の学習を通して、鬼ごっこのルールがわかり仲間と遊ぶ楽しさを知ったからだろう。A 児は、担任以外の教師にも「〇〇先生、今日はジェットコースター警泥お願いしまあす。」と自分から関わりを求める姿がよく見られるようになった。

また、順番を守る・集団に遅れないで歩く・静かに待つ・模倣して動く力など集団活動を営む力が身についてきた。

#### E) 構造化等、効果的な教材教具の活用や学習環境作りについて

対象児は、構造化など障害特性にあった学習環境を整えることで、情緒を安定させて学校生活を送ることができた。また、学習内容を視覚化・手順化することで、理解度を高め、その習得を早めることができた。

#### F) その他

外部から専門家を招いて学級の実態に即した指導を受けたり、特別支援学校が主催する研究会などにも参加する機会に恵まれたりしたことで、教員らも改めて自閉症についての理解を深め、対象児に合った効果的な指導体制や指導方法などを学ぶことができた。

#### イ 課題

この研究をさらに進めて、実りあるものにしていくために次の4点を今後の課題と考える。

A) 客観的な評価方法の作成である。実践を次年度に生かすことができるように、体育、生活単元学習、SSTなどの学習の場面において評価の観点を決め、子どもたちの成長の様子が見える記録を残す必要がある。

B) ソーシャルスキル教育を1年間の見通しをもった指導にするために、今年度有効であった手立ては取り入れ、対象児の実態に合うように内容を精選し、系統立てて指導計画を立てなければならない。

平成21年度実践したSST5「先生にサインをもらおう」は、獲得スキルが対象児にとって盛りだくさんすぎた。もっとねらいを絞ったSSTから始めるべきだったという反省が残った。

C) 社会性の育成を、自閉症の障害特性である対人関係の困難さの改善だけでなく、社会自立をめざしての能力の育成と考えると、対象児は、身辺自立にまだまだ課題が残されている。

そこで平成22年度は、特別支援学校の学習指導要領の「自立活動」(6区分26項目)に述べられている内容全般とも照らし合わせながら対象児の指導内容を考え、教育課程を組んでいきたい。

D) 小集団学習による指導体制・指導内容の工夫はある程度の成果をあげたが、保護者の願いである交流学习の在り方については今後見直したい。社会性の育成と

せっかく地域の小学校に通っていることを思えば、もっと他の子どもらとも親しんで活動してほしいのだが、時間割の調整・学習内容・支援方法などなかなか難しいのが実状である。

## 2. 城東中学校の取組

### 1) 平成21年度の教育課程について

表1は、本校特別支援学級の週時程表である。本学級では、学級（知・情）単位、学年単位、学級合同を主な学習グループとして集団指導や個別指導を行っている。

「総合的な学習の時間」は、学習内容によって、交流学級および交流学年での学習に参加している。

自立活動の指導に関しては、「教育活動全体における指導」（生活単元学習など）を基本とし、「自立活動の時間における指導」を教育課程の中に設けていない。

その理由としては、教科学習の時間の確保によるところが大きい。保護者のニーズとして教科学習を重視する声が多く、生徒の中には、本人の希望もあり、そのほとんどを交流学級先で学習している生徒もいる。また、ここ数年自立活動の時間における指導を特設する必要性の高い生徒がいなかったことも挙げられる。

しかし、生活単元学習など、集団をベースにした指導を苦手とする自閉症児の増加に伴い、個別指導を行う「自立活動の時間における指導」の必要性が生じてきた。

そこで、平成21年度は、担任が授業を担当できる時間枠を利用して全体としての教科・領域の履修状況も勘案しながら、「自立活動の時間」を試行的に設定して本研究を進めていくこととした。（表2）

もちろん各教科・領域等の指導においても、自立活動と密接な関連を図っていくことはいうまでもない。

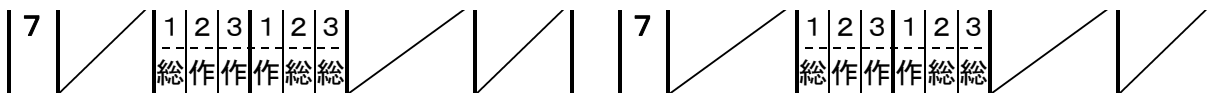
「生活単元学習」に関しては、基本的に行事単元を中心に般化の学習を取り入れた内容となるよう再検討することを課題とした。

表1 週時程表

	月	火	水	木	金										
1	日常生活の指導(8:05~8:40)														
2	生単	運動													
3	国語・数学														
4	1 英	2 体	3 音	1 社	2 体	3 理	1 技	2 英	3 体	1 体	2 社	3 コ	1 体	2 音	3 美
5	1 体	2 作	3 体	1 作	2 技	3 社	1 美	2 理	3 技	1 音	2 コ	3 体	1 コ	2 体	3 作
給食指導															
6	1 理	2 美	3 英	情 作	知 作	情 作	知 作	情 作	知 作	情 作	知 作	1 学	2 学	3 学	

表2 「自立活動」を設定した週時程表

	月	火	水	木	金										
1	日常生活の指導(8:05~8:40)														
2	生単	運動													
3	国語・数学														
4	1 英	2 体	3 音	1 社	2 体	3 理	1 技	2 英	3 体	1 体	2 社	3 コ	1 体	2 音	3 美
5	1 体	2 自	3 体	1 作	2 技	3 社	1 美	2 理	3 技	1 音	2 コ	3 体	1 コ	2 体	3 作
給食指導															
6	1 理	2 美	3 英	情 作	知 作	情 作	知 作	情 作	知 作	情 作	知 作	1 学	2 学	3 学	



※「1」＝1年 ※「2」＝2年 ※「3」＝3年 ※「情」＝自閉症・情緒障害学級 ※「知」＝知的障害学級

※「作」＝『作業学習』 ※「コ」＝『コンピュータ』 ※「生単」＝『生活単元学習』

※「総合」「学活」は各学年と共通 ※「自」＝自立活動

## 2) 本校生徒のニーズに共通する指導内容と自立活動との関連

区分	項目	指導内容(例)	方法
人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	・担任や級友との関係づくり	・ソーシャルスキル指導
	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	・級友、交流学級生徒や担任とのやりとり	・保健の授業を利用した異性との接し方指導
	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	・級友と意思疎通しながらの活動	・体育時における集団行動訓練
	(4) 集団への参加の基礎に関する事	・級友や小集団の中での主体的な活動参加	・校外学習 他
コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎能力に関する事	・五感や表情の理解と表現	・あいさつ・マナー指導
	(2) 言語の受容と表出に関する事	・自己紹介（住所・電話・趣味等）の表現	・ソーシャルスキル活動を通じたコミュニケーション指導
	(3) 言語の形成と活用に関する事	・自分の意思の表現	・日記、作文指導
	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事	・友だちや身近な人の表情や感情（喜怒哀楽）の理解と表現	・発表
	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事	・公共の場での適切な行動や友だちとの協力に対する賞賛の理解と達成感・満足感の表現	・ワークショップで聴く・話す等のスキル指導他

## 3) 「生活単元学習」年間指導計画の作成（表3）

「自立活動の時間」で獲得したスキルの応用や般化を意図し、行動モデルを発揮する場面として、学校行事、徳島市特別支援学級交流会行事、校区内小・中学校交流会行事、学級行事を中心とした学習単元を月ごとに取り入れた年間指導計画を作成した。

表3 生活単元学習年間指導計画

月	単元名・学習内容	単元のねらい	自立活動のねらい 区分と項目
4月	<b>新しい学年・新しい友だち</b> ・各自の本年度の目標や係活動を決める。 ・自己紹介やゲームを通して、親睦を深める。	・新しい仲間や新しい環境について知り、学級の一員である自覚と意識を育てる。	6(1)(2) ・発表 ・あいさつ 6(5)・言葉づかい 3(4)・ルール

5 月	<b>陸上記録会に参加しよう</b> ・自己の各種目別目標記録を決める。 ・日程や準備物の確認等をし、公共交通機関 ・公共施設を利用する際のルールやマナー等について知る。	・日頃の練習成果を発揮できる場である記録会へ、目標をもって参加できる。 ・公共のルールやマナーを学び、注意事項について考える。	3(3) ・セルフコントロール 3(4) ・ルール ・ マナー
6 月	<b>調理交流会に参加しよう</b> ・役割分担と開催準備（材料の購入等）をする。 ・他校生との交流の際のマナーについて考える。	本校での開催にあたり、他校生をむかえるための準備をし、心構えについて学ぶことを通して意欲を高める。	3(3) ・セルフコントロール 3(4) ・マナー
7 月	<b>宿泊学習に参加しよう</b> ・目的・日時・場所を知る。 ・昨年の活動の様子や施設・設備について、写真や映像で見て確認をする。 ・しおりのイラストを作成し、製本をする。 ・日程・準備物の確認をする。 ・役割分担を決める。 ・タクシー割りや部屋割りを確認する。 ・夕べの集いでの出し物の練習をする。 ・入所式・退所式の練習をする。 ・事後学習（感想・アルバム整理）	・自然に親しむとともに、集団生活をするために必要な知識や態度を身につける。 ・友だちと活動することにより、協力することの大切さを意識し、楽しさを味わう。 ・野外活動についての知識・技能及び態度を身につける。 ・事前学習を行うことで、見通しをもって、意欲的に参加することができる。	3(2) (3) ・集団行動 ・自立 ・セルフコントロール
9 月	<b>文化祭（展示の部）準備をしよう</b> 美術や技術、作業学習等で作製した各自の作品や共同作品に名札をつけ、レイアウトを考えるなど展示にむけての準備を分担して行う。	分担した作業に取り組むことを通して、自分の行動に責任をもつと共に、協調性を養う。	3(1) 6(1) ・協力
10 月	<b>陸上記録会に参加しよう</b> ・向上賞をめざして、自分の目標をたてる。 ・日程や準備物の確認をし、交通機関・公共施設でのルールやマナー等について復習する。	・参加への意欲を高める。 ・春の陸上記録会での様子をふり返り反省点を活かす行動がとれるようにする。	3(3) ・セルフコントロール 3(4) ・ルール ・ マナー
11 月	<b>遠足（1・3年）修学旅行（2年）に参加しよう</b> ・目的・日時・場所を知る。 ・行程や持ち物等の確認をする。 ・集団行動のルールやマナーについて学ぶ。 ・お土産リストの作成をする。 ・自由行動での活動計画を立てる。 ・事後学習（感想・アルバム整理	・注意事項等を知り、参加への期待感を高める。 ・健康・安全、集団行動、公衆道徳について、望ましい体験ができるようにする。	3(3) ・集団行動 3(4) ・ルール ・ マナー
	<b>学習発表会に参加しよう</b>	・具体的な取り組みを通して、	6(1) (2)

～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劇のあらすじと、配役の確認をする。</li> <li>・台本の台詞読みをする。</li> <li>・自分の台詞を覚える。</li> <li>・場面ごとに、立ち位置や動きの確認をし、自分の出番やさがるタイミングをつかむ。</li> <li>・全体で劇の通し練習をする。</li> <li>・通し練習のビデオを見て、自分の動きをチェックする。</li> <li>・各パートに分かれての練習や、大道具・小道具づくりを行う。</li> <li>・細かなところをチェックし、全体での通し練習をする。</li> <li>・活動内容を反省する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化的な学習活動を楽しむ心を育む。</li> <li>・生徒の力に応じて参加できる体制をつくり、その中で協調性を養う。</li> <li>・自分の役割を自覚し、最後までがんばろうとする態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く</li> <li>・話す（正しい発音）</li> <li>3(2)6(1)</li> <li>・表情づくり</li> <li>3(1)6(1)</li> <li>・協力</li> <li>3(3)</li> <li>・セルフコントロール</li> </ul>
12月	<p><b>卒業おめでとう会に参加しよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出し物の練習をする。</li> <li>・（1・2年）卒業生に贈るプレゼントを考え製作する。</li> <li>・どんな自己紹介にするか考えて練習をする。</li> <li>・自分の役割確認とその練習をする。</li> <li>・会場準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区内3つの小学校との交流会を通して、交流を深める。</li> <li>・出し物の練習を最後までがんばろうとする態度を育てる。</li> <li>・卒業・進級への意識を高め、今後の希望や意欲をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3(3)</li> <li>・セルフコントロール</li> <li>6(2)(5)</li> <li>・あいさつ・言葉づかい</li> <li>3(1)6(1)</li> <li>・協力</li> <li>6(5)</li> <li>・コミュニケーション</li> </ul>
1月	<p><b>さくら作品展を成功させよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本番に向けて、出品作品の整理をする。</li> <li>・案内状づくりを行う。</li> <li>・会場での受付練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内状づくりや封筒への住所・宛名の書き方について実践を通して学ぶ。</li> <li>・受付係として来場者への対応の仕方を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3(4)</li> <li>・マナー</li> </ul>
2月	<p><b>親子料理講習会を楽しもう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と子どもがペアになってグループを作り、分担メニューの調理に取り組む。</li> <li>・会食を楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とのふれあいや調理活動への意欲を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3(1)6(1)</li> <li>・協力</li> <li>6(5)</li> <li>・コミュニケーション</li> </ul>
3月	<p><b>1年間をふり返って</b></p> <p>アルバムやビデオを見ながら今年1年の活動をふり返り、新年度への決意を新たにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この1年間をふり返って、卒業・進級することへの自覚をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3(3)</li> <li>・セルフコントロール</li> </ul>

#### 4) 自立活動における個別指導計画の作成

##### ア 社会性の育成に関する実態把握

- ① 保護者からの聞き取りによるアセスメント
- ② 行動観察によるアセスメント

③ 心理検査（WISK-Ⅲ、S-M社会生活能力検査等）によるアセスメント

<生徒Aのアセスメント>

コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	聞 く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示を、自分から注意して聞き取るのは難しい。</li> <li>・聞いて理解することが苦手である。</li> <li>・経験や学習を頼りに適応（行動）し、状況を正確に理解できていない場面もある。</li> </ul>
	話 す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつや返事は、自分からできる。</li> <li>・質問に、簡単な言葉で答えられる。「はい」「いいえ」「～します」「～です」</li> <li>・簡単な報告や連絡等はできるが、複雑な連絡や自分の気持ちを伝えることは難しい。</li> <li>・自分の内にとどまる独り言（小さな声）が多い。</li> <li>・言葉によるコミュニケーションへの要求が低い。</li> <li>・助詞の使い方が不適切なことが多い。</li> <li>・声の大きさの調整が難しい。</li> <li>・言葉を交わす際には、視線が合いにくいことが多い。</li> </ul>
学 力	読 む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書は料理の本が好きで、写真を見ている。</li> <li>・手助けがあれば、短い文章を読んで内容を理解することができ、質問にも答えられる。</li> <li>・視覚的弁別がはやい。（カードを見て正しい言葉を選ぶ課題）</li> </ul>
	書 く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書字はていねいである。</li> <li>・漢字の書き取りや読みの学習を好み、授業時間内に課題が終えられないと、休み時間になっても続けることがある。</li> <li>・漢字を書くときは、独り言はあるものの、指示があるまで作業は続けてできる。</li> </ul>
	計 算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な四則計算は自分でできる。</li> <li>・計算問題に取り組むときは、すぐに身体を掻いたり筆箱をさわったりして、独り言が出る。</li> <li>・文章題や図形問題は難しい。</li> </ul>
	推 論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9枚の絵カードを2つのグループに分ける課題は、正確にできる。</li> <li>・同種の絵カードを見つけるマッチングの課題は正しくできるが、どのような仲間なのか共通点を見つけて言うのは難しい。</li> <li>・連想は、テーマに沿って正しくできる。</li> <li>・連想した物を、絵で表出する。言葉の表出は難しい。</li> <li>・絵は幼いが、的確な情報が複数描かれているので、何の内容かがわかる。</li> </ul>
行 性	情 緒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒は比較的安定している。</li> <li>・表情が軟らかく穏やかで、通常学級の上級生に声をかけられ「は～い」と返事ができる。</li> <li>・自分が苦手とする課題になると、泣いて拒否したりその場から逃げようとしたりする。</li> </ul>
	社 会 性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分からあいさつや声かけができる。</li> <li>・困ったときは助けを求めることができる。</li> <li>・大きな音や音楽が苦手な、耳をふさぐことがある。</li> <li>・自分の要求は言葉で伝えることができる。</li> <li>・校外学習時、公園での時間待ちのときみんなは色おにをするが、一人でブランコにのる。</li> </ul>
	注	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業や計算の学習を始めると、すぐに独り言が出たり身体を掻く動作になる。</li> </ul>

動	集意中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・促すと課題に戻るが、集中力や持続力に乏しい。</li> <li>・具体物の視覚認知は比較的良好である。</li> </ul>
	行動管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階段を下りるのが苦手（いつもではない） 歩道橋の階段（△）、学校の階段（時々）</li> <li>・力の調節が難しい。（鉛筆で強く書く 棒針編みがきつくなる 等）</li> <li>・運動は、あまり好きではない。</li> <li>・ストレッチ体操等は張り切って取り組むが、指示で動くのは難しい。周りを見て追いつく。</li> <li>・行動が非常にゆっくりである。</li> </ul>
生	興味心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・料理の本や旅行のガイドブック等が好きである。</li> <li>・校外学習でバスに乗り込むときは、一番に乗り込み座る。</li> <li>・ギター演奏が好きで、よく演奏しているマネをする。</li> </ul>
	身自辺立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの整頓ができる。</li> <li>・きちんと服装を整えることができる。</li> <li>・洗濯機の操作ができる。</li> </ul>
	家健事康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示にしたがって、薬を飲んだり体温を計ったりすることができる。</li> <li>・すり傷などの簡単な手当ができる。</li> </ul>
	職業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決められたスケジュールにしたがうことができる。</li> <li>・失敗したときに、報告したり謝ったりできる。</li> <li>・作業学習中、自己の世界に陶酔することがしばしばあり時間内に効率よく作業をする意識がない。</li> </ul>
身	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーがある。よく身体（頭・首・腕・手首・指）を掻いている。</li> <li>・給食はしっかり食べ、偏食はほとんどない。</li> </ul>	
検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WISC-III</li> </ul>	
査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S-M式社会生活能力検査 等</li> </ul>	
<p><b>【課題からみる社会性の育成に関わる指導・支援の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭による指示は、短い分量で、ゆっくり、はっきり、具体的に行う。</li> <li>・大量あるいは複雑な教示や指示を口頭で伝える際や新たな又は日常と異なるイレギュラーな学習場面では、イラストや文字などの視覚的な手がかりを用いることを試みる。</li> <li>・一度に聞いて記憶できる容量の小ささ等への対応として、重要な事柄に関するキーワード等のメモを紙に書いて渡したり、メモを取らせたりすることを試みる。</li> <li>・自分の気持ちを伝えるような場面において、想定されるいくつかのパターンについて個別学習、練習（ロールプレイなど）を行い、ふだんの学校生活の場面で活用する場面を設け、般化させていく。</li> <li>・口頭のみで伝えた場合、言葉を適切に受け止められなかったり、こちらの趣旨や願いと異なる解釈をしていたりする可能性があることから、シンボル化したイラストや文字等により視覚化することを試みる。</li> <li>・正しいことや望むことを伝えるばかりでなく、生徒本人に考えさせたり、選択させたりする機会を設定する。</li> <li>・「体験を通して学習する」という視点（教育活動全般が学習場面である）を重視し、その時その場面でのいねいに具体的に伝える、対応する（フィードバックする）という意識をもって関わる。</li> <li>・指示する内容や活動については、一つずつを心がける。</li> </ul>		



- ・言葉を使った楽しいやりとりの場をつくり、経験を広げる。  
やりとりを通して、聞く力、話す力を伸ばす。  
やりとりを通して、友だちとの交流を深める。

- イ 本人・保護者の願い、担任の思いに基づく長期目標・短期目標を決定する。
- ウ 学期ごとに評価し改善する。
- エ 年度末に1年間の評価をし、成果と課題を次年度に引き継ぎ、連携・支援体制を作る。

## 5 指導の実際

### ア 学級活動の時間における「自立活動」の授業実践

- 少人数グループでの指導

- ◆ 活動内容（般化）

活動Ⅰ 「いっせーの一でっ!」・・・相手と息を合わせる

活動Ⅱ 「ボトル運び」・・・相手と息を合わせる

- ◆ 対象 対象生徒を含む特別支援学級

- ◆ 指導者 学級担任

- ◆ 生徒の実態

休み時間等の自由時間に、級友といっしょに何かをして遊ぶという要求が低い。また、支援を必要とする場面において、立ち止まってしまう生徒がいる。

- ◆ 指導目標

- ① 相手と息を合わせて、楽しく活動することができる。
- ② 困ったときには、言葉にして助けを求めることができる。

- ◆ 指導目標設定の理由

やりとりを通して、相手をわかろうと意識する態度を養い、協力することの意味を理解させたい。

- ◆ 自立活動の区分と項目

目標①：3 人間関係の形成 (2) 他者の意図や感情の理解に関すること

目標②：6 コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎能力に関すること

- ◆ 般化の場面 特別活動

- ◆ 展開の概要

学 習 活 動	指導上の留意点	準備物等
1 はじめの会	・本時の活動内容について知らせ、見通しをもたせる。 ・困ったとき、どうすればいいかその方法を確認する。(困ったときは「手伝ってください」と助けを求める)	トランプ
2 活動Ⅰ 「いっせーの一でっ!」 ・カードを1枚ずつ出し、大きいカードの人が場の札をとる。	・ルールを理解を助け、カードをそろって出せるようにタイミングを合わせる練習をしてから実施する。	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードが多い人が勝ち。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの顔を見るように促す。</li> </ul>	
<p>3 活動Ⅱ 「ボトル運び」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水入りペットボトルを二人一組で、ひもを使って運ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力の入れ具合、二人の距離を意識させる。</li> </ul>	ペットボトル ビニルひも ビニルテープ ワークシート
<p>4 終わりの会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートで簡単なふり返りをさせる。</li> </ul>	
<p>◆ 評価の観点</p> <p>活動Ⅰ ・ルールを理解して、カードを出すタイミングを合わせられたか。</p> <p>活動Ⅱ ・力の入れ具合等、相手と協力して活動に取り組んだか。</p> <p>活動Ⅰ・活動Ⅱ ・困ったときには、言葉にして助けを求めることができたか。</p>		

## イ 日常生活の指導の時間における「自立活動」

### 自分の気持ちを発表しよう

#### ■ 生徒の実態

生徒の中には、時間割表を見て1日の自分のスケジュールを確認はできるものの、その時間の具体的な学習予定内容等を何度も担任に確認せずにはいられない生徒がいる。また、発語はエコラリアが多く、言葉を交わす際には視線が合いにくい生徒、問いかけに対して単語で返答する生徒、問われていることに対して適切な返答ができないときに座り込んで大声を出すなどパニックに陥る生徒がいる。

#### ■ 指導目標：① 一日の生活を見通して自分の目標を決め、反省することができる。

② 自分の気持ちを文にして、発表できる。

#### ■ 指導目標設定の理由

学級生徒の実態をふまえ、朝夕の短学活で一日を見通すことにより情緒の安定を図りたい。また、意図的に学級内での発言の機会を設け、実態に応じて発表の骨子をパターン化できるような手だてをすることにより表現スキルの定着・アップを図りたいと考える。

#### ■ 自立活動の区分と項目

目標① : 1 心理的な安定 (1) 情緒の安定に関すること

目標② : 6 コミュニケーション (2) 言語の形成と活用に関するこ

#### ■ 般化場面 : 学活・日常生活の指導

#### ■ 指導計画

場所：教室

時間帯：朝夕の短学活

指導形態：学級担任2名・学級生徒9名

教材：司会カード・今日の目標カード・今日の反省カード

支援：・スケジュールの確認をする。

・発言のきっかけとなる言葉を例示する。

#### ■ 評価の観点

・休憩時間に次の授業の準備をし、授業開始前のチャイム着席ができたか。

・短学活で、自分の思いをカードの( )に入れて、文にして発表することができたか。

## ※ 教材教具の活用



▲「今日の反省カード」



▲「朝の活動」のスケジュール



▲「休み時間」のスケジュール

達成できた項目からマグネット(賞)  
を自分で置く⇒達成感・意欲の向上  
→自主性

休み時間の利用の仕方を自分で決  
定する⇒見通しをもつ→安心感

## ウ 自立活動区分3「人間関係の形成」・性教育授業実践

### 本学級における性教育の目標および指導内容

#### ○ 目 標

- ・ 自分の心身の発育・発達の変化に気づき、自分や他人を大切にしようとする心情や態度を育てる。
- ・ 男女の身体の違いを理解するとともに、互いに相手を思いやる心情や態度を育てる。
- ・ 家族や社会の役割やルールを理解し、適切に判断し行動する態度を育てるとともに、犯罪被害が起きていることを知り、被害を防ぐ方法を身につけさせる。

#### ○ 指導内容

#### 1. 自分自身に関すること→ 項目(3) 自己の理解と行動調整に関すること

- (1) 生命に関する側面・・・自分や家族の誕生の様子・生命の大切さ
- (2) 身体に関する側面・・・自分の身体の成長・身体と身の清潔  
思春期の身体の変化
- (3) 心に関する側面・・・思春期の心の変化

#### 2. 人間関係に関すること→ 項目(2) 他者の意図や感情の理解に関すること

友だちとの協力・男女の協力・異性との接し方

#### 3. 家族や社会の一員に関すること→ 項目(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること

#### (4) 集団への参加の基礎に関すること

家族の一員としての役割・他者への思いやり・社会のルール・公共施設利用マナー・性被害の防止

### 学 習 指 導 案

指導者 T1：養護教諭 ・ T2：学級担任

#### ◆ 題 材「心と身体の発達」

#### ◆ 目 標 (ねらい)・・・自立活動区分3「項目(3)・(2)」

- ・ 自分の身体の成長と男女の身体の違いを理解することができる。
- ・ 異性との接し方がわかり、節度ある行動をとることができる。

◆ 展 開		
学 習 内 容 ・ 活 動	指 導 上 の 留 意 点	準 備 物
<p>(Q)「私のこと知っていますか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養護教諭の自己紹介</li> <li>・ 健康や身体の発達についていっしょに学習することを確認する</li> </ul> <p>○ 生まれた時の様子を知ろう</p> <p>(Q)「この音は何の音でしょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・・・赤ちゃんの泣き声を聞く</li> <li>・ 赤ちゃん人形（実物大）を抱く</li> </ul> <p>○ 成長の様子を知ろう</p> <p>(Q)「赤ちゃんはどんな時泣くかな」</p> <p>(Q)「みんなは何歳ですか」</p> <p>(Q)「赤ちゃんの頃から今までで、できるようになったことは何 かな」</p>  <p>▲ おすわりについて説明する教員</p> <p>○ 男女の身体の違いを知ろう</p> <p>(Q)「みんなは男の子？女の子？」</p> <p>(Q)「この赤ちゃんは男の子？女の子？」</p> <p>○ プライベートゾーンとの関わり方について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他人のプライベートゾーンは「見ない・さわらない」</li> <li>・ 自分のプライベートゾーンは「人前で見せない・人前でさわらない・清潔にする」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養護教諭を「保健室にいる先生」「病気やけがの時に手当をしてくれる先生」として知らせる。</li> <li>・ 健康や身体のことについて学習することの大切さを理解させる。</li> <li>・ 赤ちゃん人形（実物大）を抱き、泣き声を聞かせ、五感（視覚・聴覚・触覚）に訴え、体感させながら自分の成長過程をふり返らせる。</li> <li>・ 赤ちゃんは泣くことでしか意思表示できないが、家族の世話（ミルクを飲ませ・おしめを替え・だっこ等）によって、大切に育てられたことを理解させる。</li> <li>・ 今の自分をふり返り、できるようになったこと（歩く・走る・言葉をしゃべる・文字を書く等）を知り、身体も心も成長していることを理解させる。</li> <li>・ 赤ちゃん人形の性差（性器）を通し、男女の身体の違いを理解させる。</li> <li>・ 男女のプライベートゾーンについて、着せ替えワーク（男女裸図・男女水着図）で着せ替え作業をさせながら、わかりやすく理解させる。</li> <li>・ 「体の清潔（お風呂の入り方）」「異性との接し方（節度ある行動）」について、プリント（図）を見ながらわかりやすく理解さ</li> </ul>	<p>カセットテープデッキ</p> <p>赤ちゃん人形</p> <p>乳幼児の運動機能の発達段階表</p> <p>赤ちゃん人形</p> <p>着せ替えワーク（3枚とじ）</p> <p>&lt;提示資料&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おふろのはいりかた</li> <li>・ してはいけないこと</li> </ul>

せる。

▼ 提示資料



▼ 養護教諭手作りによる着せ替えワーク

1 枚目  → 2 枚目  → 3 枚目 

※ 3枚のシートが1組（3枚とじ）になっていて、学習場面に応じて上へめくっていくことができるようになっている。

6) 連携・支援体制の工夫と改善

ア 校内における連携・支援体制

本学級では、教科学習については各教科の専門教員が授業を受けもっている。専門の知識をもつ教科担任が授業に加わることで、教科学習がより深まるとともに、本学級生徒との関わりを多くの教員がもつことにより、校内における支援体制をより強化できるであろうと考えている。

ところが、その一方で本学級担任も通常学級の教科指導を担当していることから、休み時間に学級担任が教室に不在の時間がどうしてもできてしまう。

そこで教科担任の協力を得て、休み時間に生徒観察を行う教員の割り振りを行った。生徒のそばにだれも教員がいないという状況を解消することで、大きなトラブルをできるだけ未然に防げるようにしたいと考えた。また何かトラブルがおきても、教員が近くにいればすぐに対応することができる。さらに、自由時間の生徒の動きを把握でき、よりいっそう生徒理解が深まるであろうと考えた。

授業時間ごとの指導内容や生徒の様子については、連絡カードを作成して授業後教科担任に記入してもらい、学級担任へ提出してもらおう。連絡カードを通じて、担任はその日の生徒の学習状況や活動の様子を把握することができる。さらに、それを毎日の連絡帳を通じて、保護者に伝えることで保護者との連携も図れる。

こうした取り組みは、教科担任制であるがゆえに担任だけでは把握しきれないその日の生徒の情報を得る一助となっている。また生徒にとっても、休み時間そばに教員がいることで、特に対人関係から起きるトラブルの解決に「その時」・「その場で」という迅速な対応で必要な支援を受けることができる。経験を通して学ぶソーシャルスキル学習の場となることもしばしばである。

一方、性教育と関連した内容については養護教諭との連携が不可欠であると考えられる。今後とも生徒の生活年齢や発達段階に応じた指導・支援を行っていきたい。

このほか交流学級担任をはじめ、行事においてはその他多くの教員が関わり、学校をあげての支援・協力体制を図っている。

## イ 家庭との連携・支援体制

保護者と教員が生徒の行動の意味のとらえ方や対応の仕方をもとに考え、実践していく中でこそ、生徒の般化を支援できるものと考えている。学校と家庭との支援に一貫性がないと、生徒は混乱を起こすであろう。そこで、何よりも教員と保護者が生徒の行動に寄り添い、生徒と教員そして保護者の間に信頼関係を築くことこそが生徒の行動の変容を促す糸口になるものと考えている。

表4にあるように、これらの活動を通して保護者との連携を密に図っている。

家庭訪問や教育相談の折には、生徒の活動の記録である写真（アルバム）を用いてその様子を伝えている。保護者に写真を見てもらいながら説明を加えることで、よりわかりやすく学校生活の様子を伝えることができ、言葉だけによる説明では不十分な点を補っている。写真は、宿泊学習や遠足等行事を中心とした生徒の活動の記録が主なものである。

親子料理講習会は、本校の学校栄養職員の協力を得て平成19年度より実施している。献立は、生徒の実態に合わせて担任と講師である本校の学校栄養職員が話し合って決定している。生徒・保護者・教員が活動とともにしながら、保護者と教員が生徒の活動の様子に関する情報を共有できる場となっている。

表4 家庭との連携・支援活動

活 動	内 容
連 絡 帳	学校・家庭での様子を伝え合い、必要に応じて保護者の協力を仰いだり、保護者からの相談・質問に応じたりしている。このほか、必要に応じて電話連絡でのやり取りを行うこともある。
家庭訪問	学校で定められている期間のほかに、必要に応じて実施している。
授業参観	オープンスクールを含め、学校全体で定められている日に実施している。体育祭や文化祭への参観（参加）もある。
学習発表会 の参観	徳島市特別支援学級交流会行事の一つとして、障害者交流プラザにて開催している。他校との保護者同士の情報交換・交流の場ともなる。
教育相談 (懇談)	学校で定められている日のほかに、保護者の希望やその他必要に応じて実施している。
親子料理 講習会	保護者の活動への参加は希望制としている。基本的には、生徒と保護者が家庭でいっしょにできる料理を提案し、「ふれあい」や「やりとり」を深化・拡充することをねらいとしている。生徒・保護者・教員の三者がいっしょに活動することで、経験・情報を共有する場ともなる。
さくら 作品展	徳島市特別支援学級交流会行事の一つとして、ふれあい健康館・市役所にて開催され、本校からも生徒の美術作品や手工芸作品を出品している。会場受付当番日に合わせて、来場してくれる保護者も多い。

## 7) 成果と課題

### ア 成果

A) 本研究を進めるにあたり、書籍や研究紀要等の文献による自主研修や各種研修会への参加の機会を得られたことで、自閉症の障害特性や認知特性、支援方

法についての理解や認識をあらたにすることができた。

- B) 発達検査の結果ならびにその解釈と支援の手だてを保護者に伝えることで客観的な視点から、生徒のもつ特性の理解を保護者と教員が共有できるようになった。
- C) 自立活動のねらいを生活単元学習の中に取り入れ、般化の場面を盛り込んだ年間指導計画を作成するにあたって、一つ一つの行事についての有効性を改めて検討し直すことができた。
- D) 本研究が、本校における自立活動の指導そのものについて見直しを図る契機となった。「自立活動の時間における指導」の必要性や有効性の検証はもとより、どのような授業計画・授業展開がより有効な指導につながるのかその方法等、自立活動の指導に関して教員自身の課題意識が高まった。

#### イ 課題

- A) 「自立活動の指導」と「自立活動の時間における指導」とを関連づけた個別の指導計画の立て方を確立できておらず、有効な個別の指導計画の作成が喫緊の検討課題である。
- B) 「自立活動の時間における指導」を課題別や障害種別のグループに編成して、きめ細やかな個別指導をしたいと考える。しかし、本校では特別支援学級に在籍する生徒が17名おり、学級担任は加配を含めて3名、しかもそれぞれに教科指導で通常学級への指導にも関わっており、時間割による教員配置が複雑な中、必要なグループ分けが難しく、対象生徒に対してティームティーチングという形態での指導を取りづらい現状がある。

### 3. 国府養護学校の取組

#### 1) 事例研究の取り組み

本校では、3つの領域【暮らす（生活面）】【学ぶ・働く（学習面）】【楽しむ（社会性）】について個別の指導計画を立案し、指導の充実に取り組んできた。しかし、「自立活動」に焦点をあてて、現状の指導内容や指導方法を整理したり課題を明確化したりすることは実施していない状況であった。そこで、事例研究を通して、「自立活動」の現状の整理と課題の明確化、「自立活動の指導」の効果的な進め方の検討、個別の指導計画の改善・充実、専門家のコンサルテーションを受けながら授業実践することによる自閉症の特性に応じた指導内容・方法の改善に取り組むこととした。

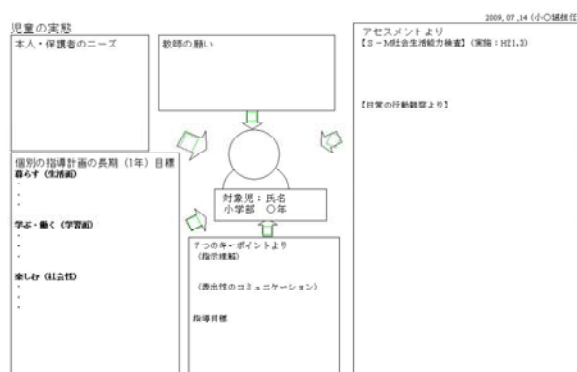
平成21年度は、自閉症児10名と他の障害の児童3名（各学級事例1名計13名）についての事例研究を実施した。「自立活動の指導」を進めるにあたり、5つのフォーマット（試案）を考案し、研究資料を作成してコンサルテーションを受けたり、自立活動の①実態把握→②指導目標の設定→③個別の指導計画の作成→④授業→⑤評価の流れでグループで事例検討会をしたりしながら指導実践を進めた。

ここでは、事例研究を通して「自立活動の指導」の進め方について報告する。

## ア 指導目標の設定（【資料1】実態把握フォーマット）

事例対象児の自立活動に関するアセスメントを行い、優先する指導目標を設定するために、実態把握は、対象児、本人・保護者のニーズ、教師の願い、アセスメント（フォーマル、日常行動観察、7つのキーポイント）、個別の指導計画の長期（1年）目標の各項目について行い、事例検討会の資料を作成した。7つのキーポイントからのアセスメントは、国立特別支援教育総合研究所の専門研修の際に使われた7つのキーポイント「表の使い方」のデータを使用した。自閉症のある児童のアセスメントや目標設定について検討し、各事例に「自立活動」の目標を1つ設定した。

### 【資料1】実態把握フォーマット



## イ 指導計画の作成（【資料2】指導計画作成フォーマット）

### 【資料2】指導計画作成フォーマット

自立活動の個別の指導計画の作成は、指導目標、対象児童、指導者、指導目標に関する児童の実態、自立活動の内容（6区分26項目）、指導目標設定の理由、般化場面の設定、指導計画（指導方法、評価方法）の各項目について実施した。

専門家参加の事例検討会では、指導目標が、自立活動の内容（6区分26項目）のどこから設定され、どこに重点が置かれているのかを明確にし、自閉症の特性に応じた指導内容・方法の改善を図るようにした。

指導目標:
<p>■児童:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロフィール: 小○組 ○年生 男子</li> <li>・諸検査結果: </li> </ul>
<p>■指導者:</p>
<p>■指導目標に関する児童の実態</p> <p>○は、コミュニケーション面において・・・</p>
<p>■自立活動の区分と項目: コミュニケーション(2) ←自立活動指導要領から選ぶ</p>
<p>■指導目標設定の理由</p> <p>ここでは、児童の実態(できないこと、できること、困っていること、学習してほしいこと)から、どのような活動・学習を自立活動として取り組みたいかという指導者の熱き思いを切々と述べてください。ポイントは、「どうしてその目標を自立活動としてしているのか」という理由を述べることです。もちろん、自閉症児のための7つのキーポイントからの視点があれば、それをかいてくださってOK。</p>
<p>■般化場面の設定 ↓ここから以下の項目は、個別の指導計画のコピー&amp;ペースト利用可</p>
<p>■指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方法</li> </ul>
<p>・評価方法</p>



## ウ 授業実践

授業では、記録に基づいて結果を数値化し、グラフに表わしながら実践を通じた形成的評価を実施した。各研究グループの事例検討会で、自閉症の特性に応じた指導内容・方法の改善を図りながら授業実践を進めた。

## エ 評価とまとめ（【資料3】事例報告作成フォーマット）

評価は、指導場面と般化場面の児童の目標達成度と教師の支援方法の適切さについて検討した。事例研究の指導の経過と評価は『実践記録』としてまとめ、事例研究報告書とした。

### 【資料3】事例報告作成フォーマット

事例② タイトル（トイレに行く時に、トイレカードを教員に手渡して伝える指導）

#### 指導目標

#### 対象児

- ・プロフィール：小○組 ○年生 男子
- ・諸検査結果：

#### 指導目標に関する児童の実態

- は、コミュニケーション面において・・・

#### 自立活動の区分と項目

- コミュニケーション（2）←自立活動指導要領から選ぶ

#### 指導目標設定の理由

#### 般化場面の設定

#### 指導方法

#### 評価方法

#### 結果

- \*実験に対する評価を事実に基づき書く。
- \*今回の実践を行った結果、子どもがどのように変化したのかについて記載する。
- \*結果をグラフ化する。グラフの縦軸や横軸、見方などについて説明を加える。
- \*般化場面の評価についても記入する。

#### 考察

- 今回の実践の結果から、どのような事が考えられるのかについて記載する。
- ・結果から、どのようなことが言えるか。
- ・子どものQOLは向上したか？
- ・コンサルテーションの効果について。
- ・自立活動の指導の視点からも述べる。
- ・今回の実践における課題や今後の指導の展望

など

- 1 -

## オ 次年度への引継ぎ資料作成

### A) 自立活動の実態（平成21年度末）と平成22年度指導目標の仮設定

#### （【資料4】実態把握〈6区分26項目〉フォーマット）

平成21年度は、自立活動の内容からの実態把握を実施せずに指導計画を立案して指導を進めてきた。しかし、平成21年6月には、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）が発行され、自立活動の内容が6区分26項目となり指導内容例が示された。そこで、平成21年度末の自立活動の実態を6区分26項目から整理することとした。そして、平成22年度指導目標の仮設定を実施した。

## 【資料4】実態把握〈6区分26項目〉フォーマット

個別の指導計画「自立活動」(個別の実態及び課題)

児童氏名(

)平成22年2月作成

内容	児童の実態	2010年度重点課題 ◎自立活動の時間に関する指導 ○自立活動の指導	具体的指導内容
1 自尊の保持 (1)生活のリズムや生活習慣の形成 (2)病気の状態の理解と生活管理 (3)身体各部の状態の理解と保護 (4)健康状態の維持・改善			
2 心理的な安定 (1)情緒の安定 (2)状況の理解と変化への対応 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲			
3 人間関係の形成 (1)他者とのかかわりの基礎 (2)他者の意図や感情の理解 (3)自己の理解と行動の調整 (4)集団への参加の基礎			
4 環境の把握 (1)保有する感覚の活用 (2)感覚や認知の特性への対応 (3)感覚の補助及び代用手段の活用 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成			
5 身体の動き (1)姿勢と運動・動作の基本的技能 (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 (3)日常生活に必要な基本動作 (4)身体の移動能力 (5)作業に必要な動作と円滑な遂行			
6 コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力 (2)言語の受容と表出 (3)言語の形成と活用 (4)コミュニケーション手段の選択と活用 (5)状況に応じたコミュニケーション			

## B) 単元一覧表作成 (【資料5】単元一覧表フォーマット)

平成21年度は、事例研究を通して、「自立活動」の現状の整理し課題を明確にするにあたり、自立活動の指導、自立活動の時間における指導の位置づけを整理することとした

## 【資料5】単元一覧表作成フォーマット

平成21年度

年 間 単 元 一 覧 表

平成22年2月作成

		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教科別の指導	学校行事											
	音楽											
領域・教科を合わせた指導	体育											
	自立活動											
	生活単元学習											
領域・教科を合わせた指導	日常生活の指導											
	課題学習 (国語・算数・自立活動を合わせた指導)											

C

C) 平成21年度の週時程表の確認と課題の明確化（【資料6】週時程表フォーマット）

平成21年度の「自立活動の指導」の指導の形態と授業時数を明確にするために、事例研究を通して週時程表を整理した。

【資料6】週時程表フォーマット

時間割上の表記名(2009年度の実際/2010年度希望)						指導の形態(2009年度の実際/2010年度希望)						
時刻	校時	( )組 氏名( )					時刻	( )組 氏名( )				
		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
9:05	1	朝会					朝会					
9:35 9:40												
10:20 10:30	2											
11:10 11:20												
12:00 12:00	3											
12:50 12:50												
13:30 13:40	4											
14:20												

教育課程上の位置づけ		授業時数(2009年度の実際/2010年度希望)	
		時間割の表記名	
領域・教科を合わせた指導	日常生活の指導		
	生活単元学習		
	自立活動を主とした合わせた指導	( )	
	人別の課題学習		
教科別・領域別の指導	国語		
	算数		
	音楽		
	図工		
	体育		
	自立活動(の時間における指導)		
	特別活動		

2) 個別の指導目標調査シート』の作成とデータの入力

『個別の指導目標調査シート』に

【資料7】『個別の指導目標調査シート』

による調査研究では、小学部の児童60名全ての平成21年度後期の短期目標について、学習指導要領の自立活動の区分と項目、各教科等の内容、学年、障害名、検査結果、指導場面と般化場面の指導時間と時間割の名称と指導の形態、障害特性との関連を入力したデータベースを作成した。次の手順でデータベース化を実施した。（【資料7】『個別の指導目標調査シート』）

2009 個別の指導目標 調査シート				記入者			
対象児童名(学年)		児	(年)	障害名			
調査結果		学年		月			
短期指導目標(後期)	指導場面	各教科等の内容	自立活動の区分と項目	般化場面	指導時間	般化時間	障害特性との関連
				A □曜日0:00-0:00	A □曜日0:00-0:00		
				B 時間割の名称	B 時間割の名称		
				C 指導の形態	C 指導の形態		
1		国語( ) ( )	( ) ( )	A	A		
		国語( ) ( )	( ) ( )	B	B		
		国語( ) ( )	( ) ( )	C	C		
2		国語( ) ( )	( ) ( )	A	A		
		国語( ) ( )	( ) ( )	B	B		
		国語( ) ( )	( ) ( )	C	C		
3		国語( ) ( )	( ) ( )	A	A		
		国語( ) ( )	( ) ( )	B	B		
		国語( ) ( )	( ) ( )	C	C		
4		国語( ) ( )	( ) ( )	A	A		
		国語( ) ( )	( ) ( )	B	B		
		国語( ) ( )	( ) ( )	C	C		
5		国語( ) ( )	( ) ( )	A	A		
		国語( ) ( )	( ) ( )	B	B		
		国語( ) ( )	( ) ( )	C	C		
6		国語( ) ( )	( ) ( )	A	A		
		国語( ) ( )	( ) ( )	B	B		
		国語( ) ( )	( ) ( )	C	C		
7		国語( ) ( )	( ) ( )	A	A		
		国語( ) ( )	( ) ( )	B	B		
		国語( ) ( )	( ) ( )	C	C		
8		国語( ) ( )	( ) ( )	A	A		
		国語( ) ( )	( ) ( )	B	B		
		国語( ) ( )	( ) ( )	C	C		

ア 『個別の指導目標調査シート』の入力項目の検討（第1回）

平成21年度10月～11月には、個別の指導目標データベース化のために、『平成21年度個別の指導目標調査シート』の項目を検討した。検討内容は、小学部の指導目標を障害特性に対応した指導内容として整理するための項目について、及び自閉症児と他の障害のある児童との比較をするための項目についてであった。その結果、入力項目は、学年、障害名、検査結果、学習指導要領の自立活動の区分と項目、各教科等の内容、指導場面と般化場面とした。

イ 『個別の指導目標調査シート』の入力（第1回）

12月中に、小学部60名全ての児童の後期個別の指導計画短期目標（約600件）について、平成21年6月発行の特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）や自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）と照合しながら、指導目標調査シートに入力し、確認作業は各学年グループで実施した。自立活動の内容（6区分26項目）との照合において、データ入力の基準が曖昧であるため項目の選択を迷うことがあった。基準を一定にするために検討課題をリストアップする作業を進めることが必要となった。

ウ 『個別の指導目標調査シート』の入力項目の再検討（第2回）

平成21年度の自立活動の指導について、教育課程上の位置づけの整理を進めるにあたり、「自立活動の時間における指導」と「自立活動の指導」を、どの時間に、どのような形態で行っているかを調査することが必要になった。また、自閉症児の障害特性別に集計し整理するためのデータベースが必要となった。そこで、入力項目を検討し、指導場面と般化場面の指導時間と時間割の名称と指導の形態、自閉症の障害特性との関連を加えた。自閉症の障害特性は、国立特別支援教育総合研究所著『自閉症教育実践マスターブック』の「学びを促進するための特性の理解と活用」チェック表にある11項目（表2）から、関連を調査することとした。

表2 「学びを促進するための特性の理解と活用」チェック表の大切な11項目

(1) 意思伝達の質的な困難(コミュニケーションの困難)
(2) 対人的相互反応における質的な困難(社会的関係の形成の困難)
(3) 行動や興味が限定され、反復的で常同的な様式がある場合(こだわりに関する質的な困難)
(4) 感覚の過敏、または鈍感がある場合
(5) 感覚的な記憶より、機械的な記憶の仕方が得意な場合
(6) 短期記憶より、長期記憶に働きかける学習方法が有効な場合
(7) 聞きながら学ぶより、動作・操作を伴った学習方法が得意な場合
(8) 聴覚より、視覚的な情報処理が得意な場合
(9) 特別な能力(独特の思考方法等)を有する場合
(10) 同時に複数の情報を処理することが難しいことがある場合「モノ・トラック(シングル・フォーカス)」
(11) がんばりどころや、休むべきところを取捨選択するのが難しいことがある場合「セントラル・コヒーレンス」

(NISE「自閉症」プロジェクト)

エ 事例対象児の『個別の指導目標調査シート』の入力した内容の検討

2月の事例検討会では、専門家のアドバイスを受けながら、入力した内容についての確認作業を実施した。平成21年度の自立活動の指導についての教育課程上の位置づけを明確にすることができた。

オ 『個別の指導目標調査シート』の入力（第2回）

追加した入力項目(指導場面と般化場面の指導時間と時間割の名称と指導の形態、

障害特性との関連) について入力作業を現在実施中である。

### 3) 成果と課題

#### ア 自立活動の指導に関する評価

平成21年度の調査研究事業で作成した資料を基に、自閉症の事例対象児について、「自立活動」の現状を整理すると、事例研究の指導目標の内容(6区分26項目)と指導方法(指導の形態等)は表1の通りであった。自閉症の事例対象児10名の指導目標について、自立活動の区分で整理すると、「コミュニケーション」に関する目標が8名、「心理的な安定」が1名、「人間関係の形成」が1名であった。指導場面の指導の形態は、日常生活の指導が6名、課題学習(国語、算数、自立活動をあわせた指導)3名、生活単元学習1名であり、全て領域・教科を合わせた指導であった。個別指導(教師1名と児童1名)は9名で、集団指導は1名であった。般化場面の設定は、日常生活の指導が6名、課題学習(国語、算数、自立活動をあわせた指導)1名、家庭や地域生活が3名であり、学習集団の構成は、全て教師1名と児童1名の個別指導であった。

表1 自立活動指導目標の内容と指導場面状況(小学部事例研究から)

	事例児	指導目標	内容(区分と項目)	指導場面 学習集団の構成	般化場面 学習集団の構成
1	事例1 自閉症 2年生男子	携帯用の援助要求カードを使用して、音声のみ、もしくは音声+カードの提示によって、2m以上はなれた場所にいる担任に援助を求めることができる。 【場面1】連絡帳を記入する鉛筆がないとき 【場面2】チェック用のホワイトボードマーカーがないとき 【場面3】牛乳を切り開く用のはさみがないとき	コミュニケーション(2) 心理的な安定(1) 人間関係の形成(1)	日常生活の指導 (教師1名:児童1名)	日常生活の指導 (人、物) (教師1名:児童1名)
2	事例2 1年生男子	朝の着替え場面において、ボタンをはずす支援が必要な時に、「おねがい」の音声と、両手を合わせるジェスチャーで、援助要求をすることができる。	コミュニケーション(1)	日常生活の指導 (教師1名:児童1名)	日常生活の指導(場所) (教師1名:児童1名)
3	事例3 自閉症 2年生男子	教室内の遊びの時、PECSを利用して教師に欲しい遊び道具を伝えることができる。	コミュニケーション(1) 人間関係の形成(1)	日常生活の指導 (教師1名:児童1名)	地域社会生活
4	事例4 2年生男子	I トークンエコノミーシステムを理解し、約束ボードの約束を守ってご褒美をもらうことができる。 II 基礎学力を身につけることによって自己肯定感や達成感を味わい、感情をセルフコントロールすることができる。	心理的な安定(1) 人間関係の形成(3)	I 日常生活の指導 (教師1名:児童1名) II 課題学習 (教師1名:児童1名)	家庭(施設)生活
5	事例5 自閉症 3年生男子	カームダウンやクローラーの部屋で休憩したいときに、要求カードで教師に伝えることができる。	心理的な安定(1) 人間関係の形成(3) コミュニケーション(2)	日常生活の指導 (教師1名:児童1名)	家庭(施設)生活
6	事例6 自閉症 3年生男子	カードを組み合わせて3語文を構成し、音声とカードの提示によって要求することができる。 (1)教師の近くに行き、腕に触れて「せんせい」と教師を呼ぶ。 (2)カードを組み合わせる。 (3)組み合わせたカードを読み、要求を伝える。	コミュニケーション(2) (3) 人間関係の形成(1)	日常生活の指導 (教師1名:児童1名)	日常生活の指導 (人) (教師1名:児童1名)
7	事例7 自閉症 4年生女子	自分のコミュニケーションブックからカードを選んで文カードを構成し、相手に渡してほしいおもちゃを要求できる。 【step1】予め「ください」のカードが貼られている文カードに、欲しい物のカードを選んで貼って要求する。 【step2】「ください」のカードも複数の動詞カードの中から選んで貼り、文カードを構成して欲しい物を要求する。	コミュニケーション(2) (4) 人間関係の形成(1)	日常生活の指導 (教師1名:児童1名)	日常生活の指導(場所) (教師1名:児童1名)
8	事例8 自閉症	給食の時間に、カードを教師に手渡して、要求を伝えることができる。(「ふりかけをください」「開けてください」「まぜてく	コミュニケーション(2) 人間関係の形成(1)	日常生活の指導 (教師1名:児童1名)	日常生活の指導 (人)

	4年生女子	ださい」「おかわりください」)	環境の把握(2) 心理的な安定(1)		(教師1名:児童1名)
9	事例9 自閉症 5年生女子	対面課題後のおやつの時、嫌いな食べ物を提示されたら、教師に『いやです』カードを渡すことができる。	コミュニケーション(1) (2) 心理的な安定(1)	課題学習(領域・教科を合わせた指導) (教師1名:児童1名)	日常生活の指導… 未実施
10	事例10 自閉症 5年生男子	不適切な言葉がでたときに、心のコントロールカードを確認し、ストレスレベルを下げるができる。 【指導場面1】対面課題 【指導場面2】朝の会 【指導場面3】床磨きのお手伝い	人間関係の形成(2) (3) 心理的な安定(2)	課題学習(領域・教科を合わせた指導)、日常生活の指導 (教師1名:児童1名)	家庭(施設)生活… 未実施
11	事例11 6年生女子	対面課題の時間、手順表に沿って生理用ナプキンの処理をすることができる。	健康の保持(1) 環境の把握(5)	課題学習(領域・教科を合わせた指導)	日常生活の指導 (教師1名:児童1名)
12	事例12 自閉症 6年生女子	いくつかの髪飾りの中から、自分の好きなものを1つ選び、その内容や要求を3語文で伝える。	コミュニケーション(2)(3) 人間関係の形成(1) 心理的な安定(2)	課題学習(領域・教科を合わせた指導) (教師1名:児童1名)	学校生活全体 (教師1名:児童1名)
13	事例13 自閉症 6年生女子	欲しい物について「 を ください」とカードとことばで要求し、手順書を見ながらクッキーを作ることができる。	コミュニケーション(2)(3) 環境の把握(5)	生活単元学習 (教師2名:児童4名)	課題学習 (教師1名:児童1名)

以上のように、平成21年度の事例研究の結果では、自立活動の指導の現状について、小学部では「コミュニケーション」に関する目標が多く、領域・教科を合わせた指導の中での個別指導による般化学習が充実していることが明らかになった。そして、平成21年度の事例研究の結果では、自立活動の指導の課題について、社会性の育成(集団への参加)を目指した般化学習の強化が必要であることが明らかになった。

## イ 児童の評価

事例研究で取り上げた13事例の自立活動の1つの指導目標について、各グループで提案した達成基準に基づいて各担任が評価した結果、全児童の各指導場面で指導目標を達成することができた。そして、般化場面でも10事例で目標達成が見られた。第一年次は、標準発達検査(PEP-R、S-M社会能力検査等)や社会性の発達に関連したスキル等の評価表による、社会性やコミュニケーション能力の評価を計画的に実施できなかった。社会性の発達に関連したスキル等のアセスメントについての検討が課題となった。

自立活動は「社会参加と自立」(目的)を目指し、小学部・中学部・高等部へと一貫性と継続性のある取り組みが重要である。そこで、本校の基本理念に沿って小学部の教育方針を定め、一人一人の自立活動の評価をすることが必要であるが、本年度はこの視点からの評価についてはシステムの中で取り組めなかった。本校の基本理念の実現を目指して、長期的な指導目標を設定し、短期目標を設定していくシステムが必要である。

## ウ 教師の支援の評価

A) 平成21年度の事例研究では、資料1～5のフォーマット(試案)を作成し、事例検討会で活用してコンサルテーションを受けながら進めてきた。自立活動の効

果的な進め方についての検討課題を整理中である。現在の課題は次の通りである。

a) 実態把握

般化学習（「自立活動の時間における指導」と「自立活動の指導」との関連）のある目標設定を行うための実態把握（アセスメント）ができたか、及び小学部の教育方針に沿って目標設定するための実態把握ができたかを評価する必要がある。そのための実態把握の項目を再検討することが課題である。また、講師先生からの提案を含めてフォーマット（【資料1】【資料4】）の検討・改善が必要である。

b) 目標設定

「自立活動の時間における指導」と「自立活動の指導」との関連性のある、生活の質の向上を目指した目標設定のために「自立活動の指導」（生活場面）から伸ばしたい面と課題を発見できるチェックリストを検討が必要である。

c) 個別の指導計画

指導計画時に、「自立活動の時間における指導」と「自立活動の指導」とに分けて指導内容や方法を決めることができるシステムを検討することが必要である。また、「自立活動の時間における指導」で定着を図り、自立活動の指導（領域・教科を合わせた指導などの生活場面）で生かしているか般化の検証（評価）ができるシステムの検討が必要である。また、講師先生からの提案を含めての検討・改善が必要である。

d) 授業

実践を通した日々の評価（形成的評価）を行うことで、実態把握が十分でなかった場合や指導計画に問題が生じた場合に、最初の計画を柔軟に変更することが大切である。形成的評価のための記録のとり方やシステムの検討が必要である。

e) 評価

総括的評価を「児童の目標達成度」と「教師の支援方法の適切さ」の観点から実施し、教育課程の検討ができるようなチェックリストを作成すること、及びフォーマット（【資料3】）の検討・改善が必要である。

B) 『個別の指導目標調査シート』による調査研究

『個別の指導目標調査シート』による調査研究では、小学部の児童60名全ての平成21年度後期の短期目標について、学習指導要領の自立活動の区分と項目、各教科等の内容、学年、障害名、検査結果、指導場面と般化場面の指導時間と時間割の名称と指導の形態、障害特性との関連を入力することとし、データベースへの入力を実施中である。第一年次の『個別の指導目標調査シート』の作成とデータの入力状況は、次の通りである。

第1回目に検討した『個別の指導目標調査シート』入力の7項目（学年、障害名、検査結果、学習指導要領の自立活動の区分と項目、各教科等の内容、指導場面と般化場面）については、12月中に、小学部60名全ての児童の入力を行うことができた。自立活動の内容（6区分26項目）との照合において、データ入力の基準が曖昧であるため項目の選択を迷うという意見が出された。そこで、指導目標調査シートに入力後、各学年グループで確認作業を実施したが、基準を一定にするために検討課題をリストアップする作業が必要となり実施中である。

第2回目の『個別の指導目標調査シート』の項目の検討で追加した3項目（指導場面と般化場面の指導時間と時間割の名称と指導の形態、障害特性との関連）についての入力は、事例対象児13名で実施することができた。2月の事例検討会では、講師の先生からのアドバイスをもとに、平成21年度の自立活動の指導について、教育課程上の位置づけを検討することができた。事例対象児以外の入力作業は、追加した項目について現在実施中である。

#### C) 集団参加の視点から見た指導内容の整理

『個別の指導目標調査シート』に入力した『自立活動の内容3人間関係の形成(3) 集団への参加の基礎に関すること』の項目を確認中である。今後、本校の個別の指導計画の3つの領域【暮らす（生活面）】【学ぶ・働く（学習面）】【楽しむ（社会性）】の中の【楽しむ（社会性）】の領域との関連についてが検討課題である。

## 6 今後の展望

各研究実践校の1年次の取組の成果と課題、また、研究運営協議会の委員からの意見をふまえ、平成22年度には次の点を中心に研究を進める。

### 1) 自立活動に焦点をあてた実践

- ア 子どもの実態から、自立活動で指導する内容を整理する。
- イ どのような方法で指導するかを整理する。
- ウ 自立活動と他の教育活動とを関連づけた個別の指導計画を作成する。

### 2) 「般化」を視野に入れた教育課程の編成

- ア 教育課程に「自立活動の時間」を位置づける。
- イ 「自立活動の時間」と教科・領域を合わせた指導との関連を明確にした教育課程の編成と検証を行う。
- ウ 般化の場面の工夫と検証を行う。

研究実践を進めるにあたり、国府支援学校が作成した「実態把握フォーマット」等を小・中学校が実態に応じて活用するなど、各研究実践校が連携を深め、互いに成果等を共有しつつ研究を推進する。

また、平成22年8月に開催予定の「徳島県特別支援教育研究会夏季研修会」において、各研究実践校が取組を発表し、研究実践の成果を県内の小・中学校、特別支援学校の教員等に普及する。

そして、各研究実践校の実践をもとに、自閉症の児童生徒の特性に応じた自立活動の在り方を具体的にまとめるとともに、自閉症の子ども達の生活をより豊かなものとするための教育課程の在り方について考察し、自閉症の児童生徒の教育推進に寄与したい。